

電子複写不可

0980

昭和史編

作
成
済

昭和二〇、二二

防空戦闘業務詳報

昭和二〇、二二

七七五飛行場中隊

防空研究所



2700-7
1

本土周辺
61



0851

經濟史料



一三、林室我斗業習詳報

昭和二十二年二月
第七五號
中隊 (徳軍)
(徳軍)

#2700-7
1.



參謀部保管

球七六五警第二三號

一、三三空襲戰詳報提出ニ關スル件通牒

昭和三十年二月十八日

球第七一六五部隊長

球第六六部隊參謀長殿

首題ノ件 第七五飛行場中隊ノ分別冊ノ通リニ部

長ハ又

0852

昭和二十年一月二十日

秘

(2)

一三南西空襲戰鬥詳報

第七十五飛行場中隊

24218

0853

戰鬥前ニ於ル彼我形勢ノ概要

一 一月二十日有カナル敵機 動部隊 台湾東方沖ニ現ルトノ
情報ヲ取次テ南西諸島及台湾全區航空隊一。五第一次警
戒配備ニ就ク次テ二十一日一。五第二次警戒配備下令セル(受信
二十日一。四。)

二 コレヨリ 叢中隊ハ獨立整備隊(球ハ。五)ト協力シ隨時飛來スル
陸海友軍機ニ對シ全カヲ擧ゲテ協カスルト共ニ陣地偽裝
ノ強化並ニ飛行場 對空海ノ警戒ヲ嚴ニシ應 渡態勢ヲ整
ヘ待機ス。

三 越テ二十日下午 南西諸島及台湾全區ニ亘リ空襲警報發
令(二十日一。四。受信)中隊ハ直ニ對空射擊部隊(整備小隊
輕機分隊モ含ム)並ニ諸部隊ヲシテ戰鬥配置ニ就カシルト
共ニ飛行場設定中ノ勤務隊及近附住民ニ速報ス。

四 當時ニ於ケル航空部隊ノ展開配置及飛行場ノ狀況別紙其ノ一
要圖其ノ二

作戰ニ影響ヲ及ボシタル氣象ノ狀況
去ル一月十日頃ヨリ曇。一月二十一日晴。當日天候曇。雲高
。米

戰鬥(行動)經過ノ概要

一 第一次

一月二十二日。五空襲警報發令ト同時ニ敵艦載機(グラマンF四F三型)四機一。一五徳之島飛行場上空ヲ偵察シ西南方方面ニ脱去ス。航空諸隊ハ直ニ戰鬥部署ニ就ク。

二 第二次

一四三五。北方海上ヨリ東方ニ迂回雲上(一。一。一)ヨリ敵グラマン艦載機九機及カリーナス爆撃機三機飛行場ニ進入。兩隊ハ隊ニ分レ主トシテ滑走路誘導路及掩体内ノ修理飛行機ニ對シ猛烈銃爆撃ヲ反覆實施ス。敵機ハ我が防空大砲僅少ノ襲撃飛行機隊無キヲ知リテカ[]無差別ナル銃爆撃ヲ加ヘ飛行場本部並ニ飛行場助務班空射所村並ニモ散彈猛烈ニ落下シレモ隊長

以下沈着ニ全員隊長ヲ中ハトシテ各塔場ニ伏匿シ戰鬥ノ經過ヲ觀察シ諸報告通報及指令ノ任ニ服ス。

我が高射機砲隊士岐少尉以下飛行場南端高地ノ偽裝既設陣地ニ滿ラ待テ待機シラリタルモ敵機有効射界ニ乘襲セガウシタメ遂ニ發射ノ機ヲ得ズ唯々切齒扼腕スルニシテ然レドモ警備隊吉村伍長以下輕機関銃手全員ハ輕機関銃四ガ以テ洞窟陣地北端高地ノ偽裝陣地ニ位置シ有利ナル敵機ニ對シ猛烈ナル對空急襲火ヲ浴ビセタルモ遂ニ撃墜スルコト得ズ。

一五四。五機及六機編隊ヲ敵機ハ機首ヲ北方海ニ向テ逃走セリ。三空襲ニ於ケル我が方ノ損害ナシ。戰鬥經過ノ概要別紙要圖第二ノ如シ。

戰鬥(空襲)後ノ行動

一 彈痕補修

ロケット彈使用(普通爆彈ノ内ニ混入シ投下マルモ概テ半数ハ不發ナリ)
八山ノ午方面ヨリ飛行場海岸ニ向テ急降下爆撃ヲナシ海上ニ脱去再ヒ山ノ午ニ迂回シ攻撃ヲナセリ

作命別紙

七五飛作命第六節

第七十五飛行場中隊命令

一月三十一日 一五...

一四三ヨリ一五四ニ直リ飛行場爆撃ヲ受ク

ニ中隊ハ龍造寺隊ト協カシ本薄暮ヨリ前項彈痕補修ヲ

實施セントス

ニ原中尉ハ關係部隊ト連絡シ中隊全員ヲ指揮シ速カニ彈

痕補修ヲ完了スベシ

四細部ニ関シテハ現地ニ於テ指示ス

中隊長 山縣 大尉

獨混六四旅司作命第十七節 其三

奄美守備隊命令

一月三十一日 一〇四五

一〇三。土臺灣花蓮港及宮古島上空ニ敵機ニ機來襲花蓮港ヲ

爆撃セリ

ニ軍八。四。南西全地區ニ警戒警報發セラル

三各隊ハ丙師戰備ヲ實施スベシ
四予ハ大和城戰闘司令所ニ在リ

奄美守備隊長

高田利貞

獨混六四旅司作命 第十九師

奄美守備隊命令

一月二十日
大和城

一空襲警報發令

二奄美守備隊長

三・五・五グラマン四機徳之島上空北ヨリ南ニ通過セルニ依ル

高度一〇〇米

獨混六四旅司作命 第二十師

奄美守備隊命令

一月二十日
大和城

一空襲警報解除 十二時三十五分

二奄美守備隊長

三空襲ノ算少キニ依ル

1960

獨混六四旅司作命 第二十一師

奄美守備隊命令

一月二十日
大和城

一空襲警報發令 一四三五

二奄美守備隊長

三敵射型機八機徳之島上空ニアリ

奄美守備隊長

高田利貞

獨混六四旅司作命 第二十二師

奄美守備隊命令

一月二十日
大和城

一空襲警報解除 一四三五

二奄美守備隊長

三敵空襲ノ算少キニ依ル

奄美守備隊長

高田利貞

兵器損耗表別紙 其ノ六 如シ

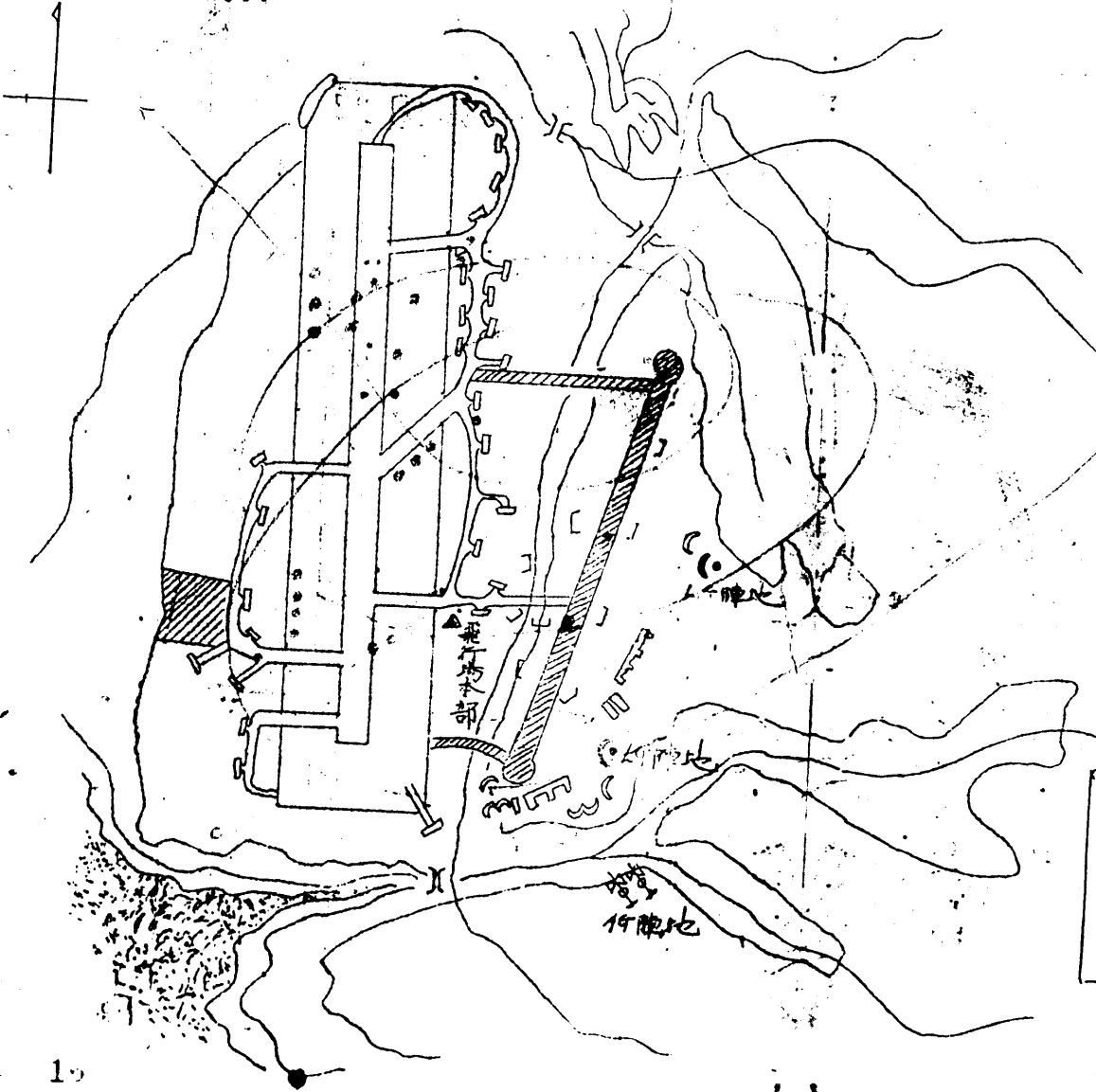
2-4980

兵器損耗表

區分	名稱	使用數	摘要
輕機関銃	九九式鉄甲實砲	廿八發	

備考
 燃料(航空自動車)彈藥ハ堅固ナル横穴式
 洞窟施設内ニ悉ク分散格納シアリシヲ以テ
 其損害皆無

9980



二、其圖要

戰鬥經過概要要圖
 於一月二十五日 飛行場

●●●	凡
○	第一次空襲
△	第二次空襲
□	第三次空襲
×	第四次空襲
○	發射彈
○	未發射彈
○	不發射彈

28

9980

3

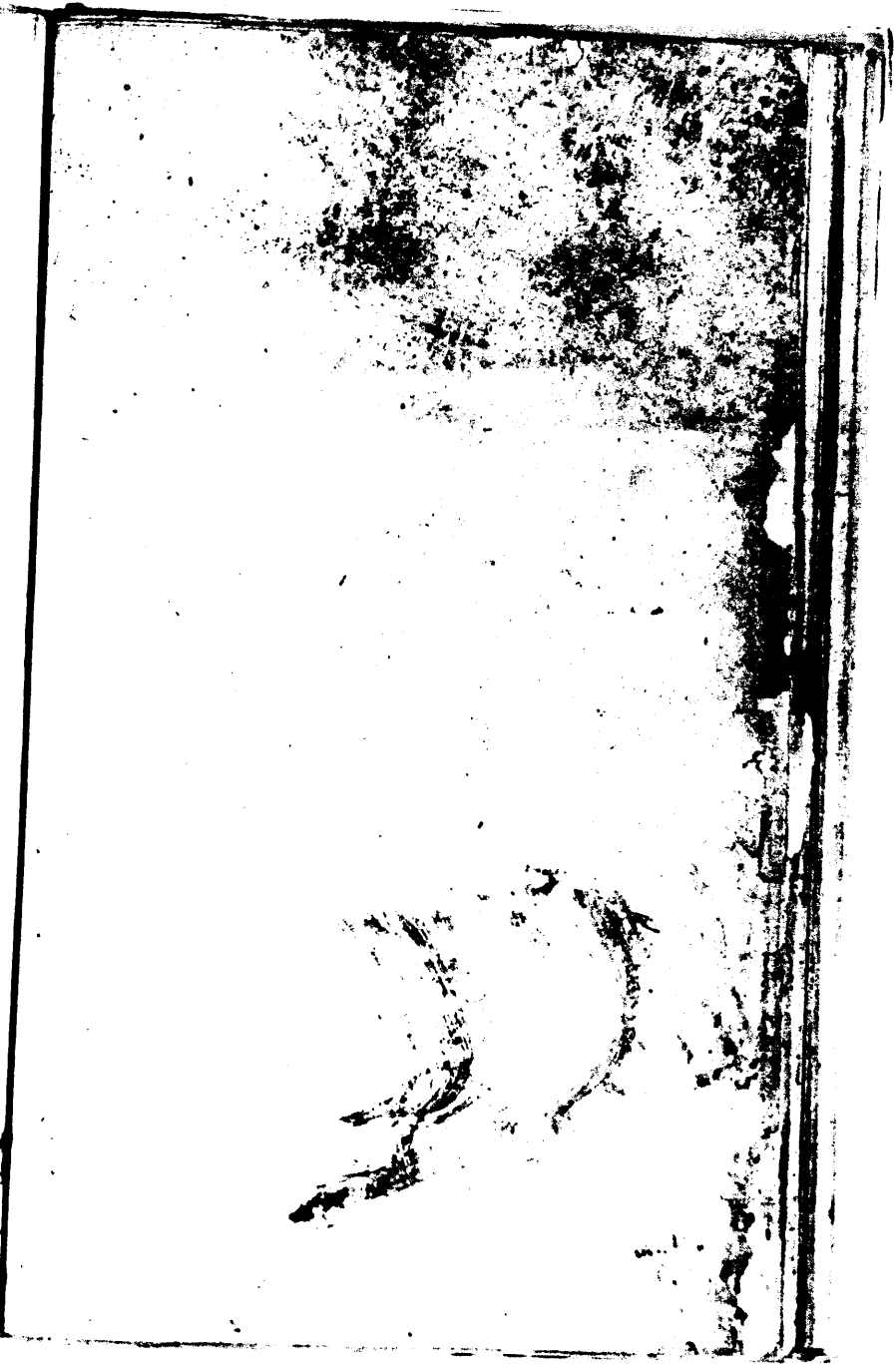
昭和三十年一月二十日

奄美群島徳之島溪間飛行場戦闘業務詳報

第七十五飛行場中隊

24209

1



奄美群島徳之島海間飛行場戦闘業務詳報目次

- 一 戦闘、概況
- 二 戦線救護、状況
- 三 綿帯所開設位置作業、状況
- 四 衛生材料、消費應用材料、使用
- 五 業務従事シタル人員及分擔

奄美群島徳之島海間飛行場業務詳報 第二十五飛行場中隊
 調制衣官 陸軍衛生部見羽皇官 原田 正也
 一 戦闘、概況

ノ第一次二月二十日、空襲警報發令、全時敵艦載機(グラマン四F三型)四機、五徳島飛行場上空偵察、西南方、南ニ飛去ス航空諸部隊直ニ戰闘部署ニ就ク。

又第二次(空襲)二四、五、六方海面より東方ニ迂回雲上(二〇〇)ヨリ敵グラマン艦載機九機及カーキス爆撃機三機飛行場ニ進入、爾後四隊ニ分レ主トシテ滑走路誘導路及掩体内、修理飛行機ニ対シ猛烈ニ銃爆撃ヲ及ヌ復々實施ス敵機ハ我ヲ防空火砲僅ク及邀撃飛行機隊無キヲ知リ、カ心憎キ差別ナル銃爆撃ヲ加ヘ飛行場本部並ニ飛行場勤務班控所附近ニミテ敵機彈徑烈ニ落下シ、之隊長以下全員隊長ヲ中心トシテ各持場ニ依取リ戰闘經過ヲ觀察シ、諸報通報及指令任ニ復

三月十日、月夜、小隊土岐ノ村以下飛行場南端高地偽裝既設庫地ニ
 満ヲ持テ待機シタルモ敵機有効射界ニ來襲セザリシ爲ニ遂ニ發射
 ノ機ヲ得ズ唯々切齒扼腕スルノミ然レドモ敵機小隊吉村伍長以下
 輕機關銃ヲ全員ニ輕機關銃四ヲ以テ洞窟障地北端高地ニ位
 置有利ナル敵機ニ對シテ猛烈ニ對空急襲火ヲ浴セタルモ遂ニ
 擊墜スル事ヲ得ズ一五四、五機及大機編隊ニテ敵機ハ機首ヲ北
 方海面ニ向ケ逃走セリ。

二戰關線救護ノ狀況
 空襲來襲警報發令ト共ニ救護準備ニ遺憾ナクナリ期シ洞窟内救
 護所ニ待機ス

乙四、三五、敵機來襲一五四。敵機逃走スト共ニ原見習士官山崎
 伍長衛生兵一名ト篠原曹長衛生兵一名トニテ班三分レ飛行場及
 洞窟障地傷者ノ搜索救護ニ任ゼシ之軍官兵共傷者皆無ナリ

該當ノ事項ナシ
 四衛生材料ノ消費應用材料使用
 使用ノ事項ナシ
 五業務ニ從事シタル人員及分擔

業務	役種官等	氏名
一 飛行場及洞窟附近救護勤務	豫見習士官	原田正
二 傷者ノ治療診斷業務	現曹長	篠原英男
三 救護勤務及送務	豫伍長	山崎衛助
四 救護勤務及送務	救護補助要員	

税 2000-⑦	圖書 20.1.22 航空隊中隊 (徳島)	保管 番号
1	受入年月日	数量 / 摘要
和 洋	一復・二復	備 考
著者名	32年国任	発行年
発行所	航空隊中隊	頁数
使 用 所 属 階 級	氏 名	貸 付 返 納 年月日 借用者印 年月日 受領者印

本土周辺
 昭和20
 航空隊
 3月 日 迄
 貸出中
 航空隊
 昭20.1.22
 航空隊中隊 (徳島)
 洋報

